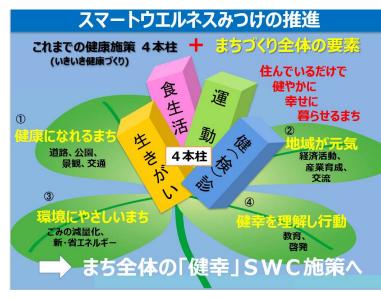
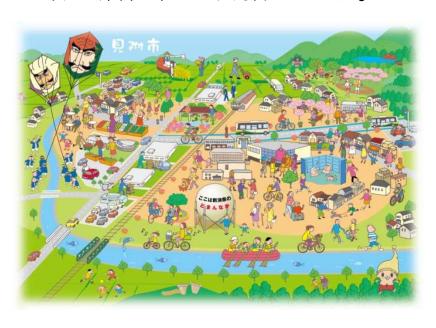
1. スマートウェルネスシティ(SWC)

人々が健康で、かつ、生きがいを持ち、安全安心で豊かな生活を送れる状態を 「健幸 (けんこう) = ウエルネス」と呼びます。

SWCとは、この健幸をまちづくりの中核に位置づけ、住民が健やかで幸せに暮らせることを目指す都市モデルです。高齢になっても健康を維持し地域で元気に暮らせることは、生きがい、豊かな生活、医療費の抑制など、個人や社会の双方に大きなメリットをもたらします。地域の担い手である住民が、「健幸」を通じて、健康維持や社会参加するための仕組みづくりを支援し、地域の活性化を目指します。







2.SDGs (Sustainable Development Goals)

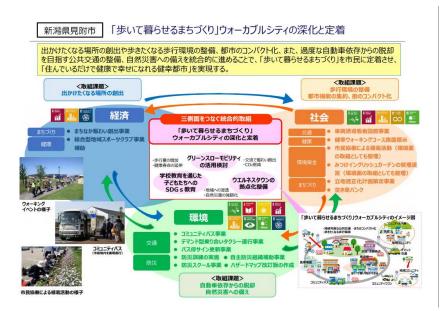
SDGs (エスディージーズ/持続可能な開発目標)とは、平成27年9月の国連サミットで 採択された2030年を期限とする、**国際社会共通の目標(理念)**です。

17のゴール(目標)と169のターゲット(取組・手段)から構成され、すべての関係者(先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等)の役割を重視し、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むものとされています。

見附市では、2019年度に全国10都市の1つとして**『SDGs未来都市』および『自治体SDGs モデル事業』の両方に選定**され、「歩いて暮らせるまちづくり」ウォーカブルシティの進化と定着に向けて取り組んでいます。







SUSTAINABLE GOALS































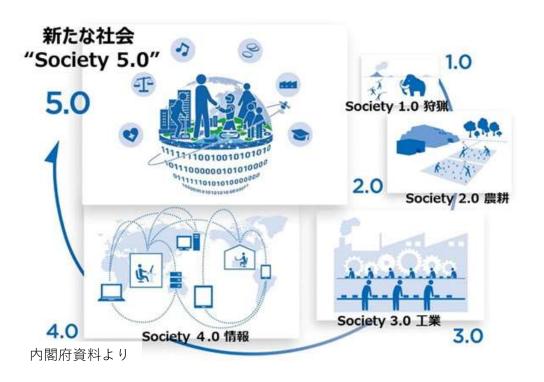


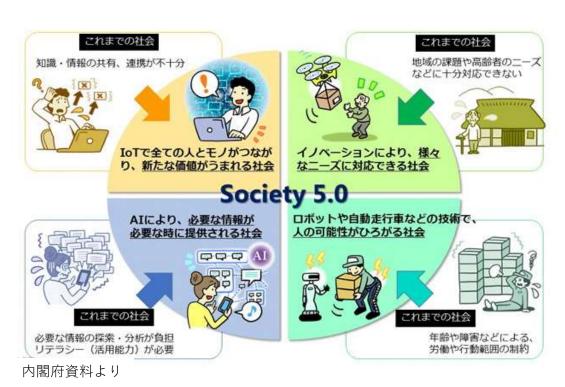


3. Society 5.0 (ソサイエティ5.0)

情報が溢れている現代社会の課題に対して、<u>IoTやAIなどのデジタルテクノロジーを活用した便利な社会</u>のことを指します。内閣府では、「世界に先駆けた超スマート社会の実現」をSociety5.0と定義し、「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」と説明しています。

地域、年齢、性別、言語等による格差なく、多様で潜在的なニーズにきめ細かく対応した モノやサービスを提供し、<u>忙しい日常から生活に余裕をもたらし、人々が快適で活力に満ち</u> <u>た質の高い生活を送ることのできる社会の実現を目指す</u>ものです。





4. デジタル技術に関する用語解説

• **ICT** (アイ・シー・ティ/ Information and Communication Technology) 情報通信技術。

情報処理及び情報通信など、コンピュータやネットワークに関連する諸分野における 技術・産業・設備・サービスなどの総称。

- **AI** (エー・アイ/ Artificial Intelligence) コンピュータがデータを分析し、推論や判断、最適化提案、課題定義や解説、学習など を行う、人間の知的能力を模倣する技術。
- **IOT** (インターネット・オブ・シングス/ Internet of Things) コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、あらゆるものがインターネットに接続される技術、身の回りの様々なものがインターネットに接続能力を備え、相互にデータのやり取りや制御が可能になる技術。
- **5G** (ファイブ・ジー) 「第五世代移動通信システム」の略称。現在の4Gと比較し、高速で大容量、低遅滞 (タイムラグがない)でありながら多接続が可能となる技術。 Society 5.0 の実現のために必要不可欠な通信インフラとされている。
- RPA (アール・ピー・エー/ Robotic Process Automation)
 「ロボットによる業務自動化の取組」を表す。定型作業が主となるデスクワークを、 プログラミングされたソフトウェアのロボットが人間に代わり作業を行い、効率化を 図る技術。